

はじめに

福岡市保健環境研究所は、平成9年5月に本市の保健及び環境に関する中核的な調査研究施設として開所しました。平成12年10月には廃棄物試験研究センターを併設し、保健・環境・廃棄物に関する総合的技術的な研究機関として拡充整備してまいりました。

また、平成15年4月には、環境情報の一元化を図るため環境モニタリングを担当する環境情報係を本庁から移管するとともに、企画調整課を新設し、企画調整力の強化と環境情報の発信に努めています。

平成14年度を振り返りますと、10月には、調査研究に対する助言・指導等を受けるため学識経験者からなる保健環境研究委員会を設置しました。また、産学官からなる博多湾再生研究会・エコ処理研究会を発足させるなど調査研究機能の高度化を図りました。

保健環境研究所が関わった主な事件としては、保育園におけるO157集団感染事例や輸入野菜の残留農薬問題があげられます。これらについては、市民を対象に初めて実施した研究発表会で発表を行いました。樋井川での洗剤の不法投棄による魚の大量斃死事件も忘れられません。

また、国際協力としては、廃棄物に関する分析分野でマレーシア及びメキシコに職員を派遣し技術協力を行いました。

この度、これらの活動内容を含めて、平成14年度の所報としてとりまとめました。皆さんへの情報提供の一助となれば幸いです。また、保健環境研究所ではホームページ「福岡市保健環境研究所&まもる一む」(<http://www.fch.chuo.fukuoka.jp>)を開設し情報発信に努めています。どうぞ、こちらもお覧ください。

平成15年9月

福岡市保健環境研究所
所長 馬場崎 正博